

日本政治学会 会報

The JPSA News

No.38

DEC.1999

倫理規定の検討を！

放送大学教授 阿部 齊

日本政治学会は創設以来半世紀を超え、会員数も1500名を越えるに至った。今や政治学研究者を網羅する学会として不動の地位を確立したといえよう。日本政治学会の主要な目的は、「ひろく政治学に関する研究及びその研究者相互の協力を促進」することにある（規約第3条）。ただ一般的にいえば、学会の任務はそれだけにつきるものではない。学会は基本的に専門職業人（professionals）の組織である。政治学会は専門職業として政治学の研究に携わる人々の組織である。こうした専門職業人の組織に課せられた任務の一つは、それぞれの専門職業にふさわしい職業倫理を発展させることであろう。

従来、こうした職業倫理を培養することは、大学院での教育に委ねられてきた。それも制度的にというよりは、師弟間で個人的に伝授されてきた。しかし、大学院が拡大し、師弟関係も非人格化しつつある今日では、もはや大学院が職業倫理の培養に関して十分な役割を果たすことは期待できない。それも、今や専門職業人の組織としての学会に期待される役割の一つである。

学会が職業倫理を発展させる方策の一つは、倫理規定を制定することである。倫理規定を制定する学会は、諸外国には多くみられるし、わが国でも学問分野によってはすでにその例がある。しかし、政治学も含めて社会科学の分野は、倫理規定の制定に関して他の分野に先行しているとはいえないであろう。

倫理規定で扱うべき問題の一つは、情報公開である。政治や行政の領域では、情報公開制は民主制を支える基本的な支柱とされている。しかし、政

治学研究者の扱う情報やデータが、十分に公開されているとはいえない。研究者が社会調査を通じて収集するデータは、学界の共有資産であり、私物視されるべきものではないであろう。データへの自由なアクセスが保障されて初めて、データの分析から適切な結論が導かれているか否かを判定することも可能になる。また、最近増える傾向にある剽窃や盗用などの問題も、知的所有権の観点から再検討する時期に来ている。

倫理規定に含まれるもう一つの問題は、学会の社会的責任に関するものである。政治学会の会員は、さまざまな形で社会に影響を及ぼしている。たいていの研究者が同時に教育者でもあることを考えれば、学生に対する影響力は絶大である。また、評論や解説を通じて市民の政治的判断に及ぼしている影響も無視できない。政治学者が教壇あるいは演壇に立つとき、言論の内容に関して守るべき倫理基準があることは当然であろう。

ただ、こうした倫理基準は何らかの価値判断と結びついており、価値の多様性を尊重せざるをえない政治学会の場合、倫理規定として明文化することには大きな困難が伴う。また、学問の自由や表現の自由とのバランスの問題もある。しかし、たとえば戦争を賛美し民族の優越を誇示し差別を助長するような言論が、政治学会の社会的責任を危うくすることも否定できない。その意味で、環境の保全、平和の追求、差別の是正といった目標は、政治学会の倫理的に是認された目標ということもできよう。ともあれ、こうした目標を倫理規定として明文化する必要があるかどうかは、時間をかけて検討するに値する問題ではなからうか。

2001 年度『年報政治学』論文公募について

2001 年度『年報政治学』の論文公募要領は下記の通りです。

1. 政治学に関連するどのようなテーマの下に書かれた論文でも受け付けます。
2. 分量は 20,000 字以内といたします。ハード・コピー (A4、40 字×30 字) 3 部を御提出下さい。なお、コピーは返却いたしませんのでご了承下さい。
3. 応募を希望される会員は、2000 年 3 月末日までに、同封の申込用紙で応募登録をして下さい。その際は、封書の表に「年報政治学論文公募」と朱書きして下さい。論文の最終締め切りは 2000 年 11 月末日といたします。

2001 年度年報委員長 馬場 康雄

なお応募登録および論文の送付先は、
〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学法学部 馬場康雄研究室
(電話 03-5841-3219 学部共用 FAX 03-5841-3174
E-mail jj56026@j.u-tokyo.ac.jp) です。

4. 公募論文の採否は、年報委員会の下に設置する審査委員会の審査を経て年報委員会で決定し、2001 年 3 月末日までに公募者へ連絡いたします。なお、採択された論文については、改めてフロッピーとハード・コピー 1 部の提出をお願いいたします。

2000 年度研究会企画に関するお知らせ

2000 年 10 月に名古屋大学で開かれる日本政治学会研究会の企画に関し、企画への提案、また自由論題の報告を会員の方々から募集することにいたします。なお採否に関しては企画委員会で決定いたしますので、あらかじめ御承知おき下さい。

<分科会企画の提案について>

- ・テーマを明確にした上で、司会、報告者 2-3 名、討論者 1-2 名を思いつきでよいからお書き下さい。

<自由論題への応募について>

- ・応募資格：日本政治学会員であること。

2000 年度企画委員長 御厨 貴

- ・報告条件：未発表の内容であること。2000 年 9 月 15 日までに、報告論文を提出できること。

- ・応募の際の記入事項：題名・内容要旨 (2000 字程度)・氏名・所属・住所・電話番号

<宛先および締切>

- ・宛先 〒105-0001 東京都港区虎ノ門 1-2-20
虎ノ門 19 森ビル 7F
政策研究大学院大学
御厨 貴
(電話 03-3506-2530)

- ・締切 2000 年 1 月 31 日 (消印有効)

研究業績自己申告のお願い

今年も、例年通り下記の要領で会員の皆様の研究業績を、『年報政治学』に「学界展望」として特集いたします。同封の用紙にて、主要な業績の自己申告をお願いいたします。

その際、各業績の専門分野をご指定下さい。

2000 年度文献委員長 飯島 昇藏

なお、紙幅の制約上、自己申告いただいた業績をすべて取り上げることができない場合がありますので、その点をご了承いただけますよう、お願いいたします。

申告対象期間 1999年1月1日から同年12月31日
までに公刊された業績
(可能な限り、抜刷りまたはコピー
などの同封をお願いいたします。
ただし、ご著書などは返送できま
せんので、その点もご了解をお願
いいたします。)

業績本数 主要なもの1, 2点
専攻分野 申告用紙に掲載した分野から選んで下
さい。

締 切 2000年1月28日(消印有効)(期限を厳
守して下さい)
送 り 先 〒169-8050 東京都新宿区西早稲田
1-6-1 早稲田大学大学院政治学研究科
飯島昇藏
(送り先は学会事務局ではありませんの
で、お間違えのないようにご注意下
さい。また、予算の関係で、封筒、切手
等は各自でお願いいたします。)

1999年度 第1回理事会記録

日 時：1999年6月19日(土)午後2時から4時
まで
場 所：慶応義塾大学

第1回理事会では、以下の事項が報告・協議された。

1. 各委員会報告

(1) 企画委員会

下斗米1999年度委員長より、6月19日現在の研究会プログラム案が配布され、開催校との打合せの結果、10月2日に共通論題「『政治改革』再訪」を、3日に開催校企画「国民国家形成と宗教」をそれぞれ行う旨報告があった。

御厨2000年度委員長より、委員を人選中であり、10月の理事会で報告したい旨報告があった。

(2) 年報委員会

加茂1999年度委員長より、6月12日に最後の研究会を行い、委員会から8本、公募論文3本の計11論文の作成が6月末締切に向け順調に進んでいる旨報告があった。つづいて、岩波書店で長らく年報を担当されてきた宮本勝史氏が死去されたとの報告とともに、これに伴い新たに担当者となった編集者と以下の3点につき、確認のための協議を行った旨報告があり、了承された。すなわち、①刷り上がり270頁、②特集は1テーマ、公募は自由論題とする、③学界展望の増頁について、である。

また、年報発行に関し、改めて岩波書店と契約

書の更改の必要があるとの提案があり、了承された。

加藤節2000年度委員長より、科研費がとれたこと、3月末現在15名から公募論文の申し込みがあった旨報告があった。

馬場2001年度委員長より、現在メンバーを人選中であり、併せて科研申請準備中である旨報告があった。

(3) 文献委員会

藪野1999年度委員長(理事長代読)より、会員からの自己申告をもとに、6月末締切をめざして現在準備中である旨報告があった。

飯島2000年度委員長より、留学等により委員の変更のあることにつき、予め了承願いたい旨報告があり、了承された。

(4) 国際交流委員会

蒲島副委員長より、IPSA執行委員会(1999年4月末)に関し、次期会長候補として韓国政治学会のダルチョン・キム氏が推薦されたこと、2000年度大会(2000年8月)の参加者募集の件、2003年度大会開催地に南アフリカとアメリカが立候補している旨報告があった。

小林(APSA担当)小委員長より、10月3日APSAとの国際交流セッションが開かれること、1999年度APSA大会への会員派遣の件、および2000年度大会への会員の派遣に関し、ニューズレターで公募を行った旨報告があった。

辻中(日韓交流)小委員長より、12月の韓国

政治学会への会員の派遣に関し、ニューズレターで掲示したこと、この募集に関し締切を7月末までとしたいこと、および1999年度大会への招聘の具体的内容については6月末までに確定する見通しである旨報告があり、了承された。

(5) 選挙管理委員会

寺崎委員長より、理事会決定通り進行中であり、投票締切が今月末である旨報告があった。

(6) 規約検討委員会

加茂委員長より、3月理事会の決定に従い、6月19日第1回委員会を開催し、問題の所在（17条一定足数、19条一変更要件、10条一理事選任権）と課題の設定の確認を行い、10月に第2回委員会を開催し、総会で改正の趣旨等を口頭説明する予定である旨報告があり、了承された。

2. 新入会員承認の件

以下の25名の入会が承認された。

浅見靖仁、李相睦、池田謙一、池田佳隆、

井関正久、井上弘貴、岩村正史、上崎哉、笠井昭文、勝村誠、栗田宣義、酒井克彦、佐々木寿美、大黒太郎、遠山清彦、冨塚秀樹、永井史男、西住徹、西山隆行、服部美樹、藤井達夫、FERNANDEZ COBO Carlos Vicente、光本伸江、宮本悟、和田修一

3. 事務局報告

久米常務理事より、以下の報告があり、了承された。(1)学会事務センターへの業務委託が完了したこと、(2)著作権協会から著作権料の振込通知があったこと。

4. その他

理事選挙投票用紙等については、一定期間保管することが了承された。

5. 次回理事会日程の件

次回理事会を、1999年10月2日（土）、10月3日（日）の両日國學院大学で開催することが承認された。

1999年 日本政治学会 臨時理事会記録

日 時：1999年9月25日午後6時半

場 所：法政大学

1. 2001年、2002年研究大会開催校の件

理事長から2001年に立教大学で、2002年に愛媛大学で研究大会を開催するべく交渉を行った結果、両校からご快諾をいただいたので、開催校をそのように決定したい旨提案があり、了承された。

2. 理事選出をめぐる規則について

次期理事選考委員会において、従来からの選出方法につき異論が一部から提起されたため、今後規約問題の再検討を進める中で検討していきたい旨報告され、了承された。

3. 理事選挙の結果について

寺崎選挙管理委員長から、理事選挙が滞りなく行われた旨報告があった。選挙結果については、次回理事会において再度報告がなされることとなった。

1999年度 第2回理事会記録

日 時：1999年10月2日（土）午後1時から2時
まで

場 所：國学院大学

第2回理事会では、以下の事項が報告・協議された。

I. 各委員会報告

(1) 企画委員会

下斗米1999年度委員長より、10月2日午前にかかれた共通論題「『政治改革』再訪」に500人近い参加者があり盛会であったこと、分科会C・Hに韓国政治学会から参加がある旨報告があった。小野理事から、公募企画の採否について、質問があり、下斗米委員長より分科会F・Lが公募企画であり、また自由論題その他については見送りとなった旨回答があった。併せて、採用とならなかった企画については、書面で連絡した旨報告があった。

御厨2000年度委員長より、企画委員を、大杉覚（東京都立大学）、大西裕（大阪市立大学）、久保文明（慶應義塾大学）、河野勝（青山学院大学）、小林良彰（慶應義塾大学）、坂本多加雄（学習院大学）、杉田敦（法政大学）、竹中千春（明治学院大学）、富崎隆（清和大学）、Jonathan Lewis（東京電機大学）、渡邊啓貴（東京外国語大学）の各会員に委嘱した旨報告があり、了承された。

また10月1日第1回会議を行ったこと、公募・自由論題については12月のニューズレターで公募する予定であること、加えて次年度研究大会終了後、各委員に自己評価報告の提出を求め、次期企画委員長の参考に供したい旨報告があった。

(2) 年報委員会

加茂1999年度年報委員長より、現在初校校正中であり、12月刊行を目的に順調に進んでいる旨報告があった。また、岩波書店の担当者の変更に伴い、同書店と、双方の役割分担等について改めてルール作りが必要であること、および学会からの研究助成金30万円を返却したい旨報告があり、了承された。

加藤節2000年度年報委員長より、順調に進ん

でいる旨報告があった。

馬場2001年度年報委員長より、テーマを「三つの民主主義」とし、メンバーについては、明日の理事会で書面で提出したい旨報告があった。

(3) 文献委員会

藪野1999年度委員長より、現在初校校正中であり、最終段階にある旨報告があった。併せて、現在の「学界展望」の10の領域への分類と自己申告との間にズレがあること、論文での使用言語の多様化に如何に対応するか、今後検討する必要があるとの提起がなされた。

飯島2000年度委員長より、委員を原武史会員から福島良一会員に変更した旨報告があり、了承された。「学界展望」の分野についてはこれまでの形を踏襲する予定であること、および12月のニューズレターに自己申告用紙を同封する予定である旨報告があり、了承された。

(4) 国際交流委員会

大嶽委員長が海外出張中のため、蒲島副委員長より、IPSA執行委員会に関し、10月5日より10日まで参加する予定である旨報告があった。

小林（APSA担当）小委員長より、10月3日APSAとの国際交流セッションが開かれること、2000年度大会への会員の派遣に関し、3名の応募者があった旨報告があった。

辻中（日韓交流）小委員長より、2日の分科会Cおよび3日の分科会Hに、それぞれ韓国政治学会より参加を得、その他同学会より4名の派遣があったこと、本年12月の韓国政治学会への本学会からの派遣に関してはメンバーが未定であり、10月末を目途に決定したい旨報告があり、了承された。

(5) 選挙管理委員会

寺崎委員長より、6月末日で次期理事候補選挙の投票を締め切り、7月10日に開票を行った結果、20名の次期理事候補が選出され、20名の当選者から理事就任の承諾を得、理事長に報告したこと、投票用紙を明年10月まで保存する予定である旨報告があり、了承された。上位20名以内の氏名は次の通り（五十音順）。

荒木義修、飯島昇蔵、大嶽秀夫、加藤秀治郎、蒲島郁夫、加茂利男、北岡伸一、小林良彰、酒井正文、下斗米伸夫、寺崎修、馬場康雄、藤井德行、藤本一美、藤原孝、堀江湛、堀幸雄、三浦信行、安世舟、渡辺浩。

2. 次期理事選出の件

理事長より、9月13日(神戸大学)、26日(東京大学)の両日、次期選出理事候補者が集まり、15名の推薦候補者を選出したこと、この結果に基づいて、次期理事会の構成員を総会に提案する旨報告され、承認された。

3. 規約検討委員会の件

加茂委員長より、総会で改正の趣旨等を口頭説明する予定である旨報告があり、了承された。

4. 新入会員承認の件

以下の11名の入会が承認された。

有谷三樹彦、石高晴奈、伊東慶四郎、上田理恵子、大中一彌、金成浩、櫛田久代、嶋田暁文、空井護、福永英雄、山本純一。

なお、入会申し込みに際して、推薦者2名がいずれも大学院生である場合の扱いについて議論がなされた。

5. 次回理事会日程の件

久米常務理事より、学会事務センターへの業務委託に伴ない、手続き等の関係で6月入会者に対し、大会の連絡等で遅れを生じたことにつき説明があった。

1999年度総会議事録

日 時：1999年10月2日(土)午後2:00～3:00
場 所：國学院大学

1. 開会挨拶 永森誠一理事(開催校・國学院大学)

2. 理事長挨拶 五百旗頭理事長

3. 委員会報告

加茂1999年度年報委員長、加藤節2000年度年報委員長、馬場2001年度年報委員長、下斗米1999年度企画委員長、御厨2000年度企画委員長、藪野1999年度文献委員長、飯島2000年度文献委員長、国際交流委員会(小林APSA担当小委員長、辻中日韓交流担当小委員長)、寺崎選挙管理委員長、加茂規約検討委員長がそれぞれ報告した。この中で、加茂委員長より、学会規約の問題点の所在について指摘がなされ、できるだけ民主的手続きに沿って会員の総意を反映したいこと、および下位の規定等についても検討したい旨報告があった。

4. 決算・監査の件

久米常務理事より1998年度決算について報告があり、千葉監事より監査についての報告を受けたのち、承認された。

5. 予算案の件

久米常務理事より1999年度予算案について報告があり、承認された。

6. 次期理事承認の件

五百旗頭理事長より、次期理事選出の経過について報告があり、次期理事として、次の35名が承認された。(五十音順)

荒木義修(松阪大学)、飯島昇蔵(早稲田大学)、石田栄仁郎(近畿大学)、市川太一(広島修道大学)、岩井奉信(常磐大学)、梅川正美(愛知学院大学)、江上能義(琉球大学)、大嶽秀夫(京都大学)、小野耕二(名古屋大学)、加藤秀治郎(京都産業大学)、加藤節(成蹊大学)、蒲島郁夫(東京大学)、加茂利男(大阪市立大学)、北岡伸一(東京大学)、北原鉄也(愛媛大学)、久米郁男(神戸大学)、小林良彰(慶應義塾大学)、酒井正文(平成国際大学)、下斗米伸夫(法政大学)、新藤宗幸(立教大学)、曾根泰教(慶應義塾大学)、谷喬夫(新潟大学)、辻中豊(筑波大学)、寺崎修(慶應義塾大学)、馬場康雄(東京大学)、藤井德行(兵庫教育大学)、藤本一美(専修大学)、藤原孝(日本大学)、古矢旬(北梅道大学)、堀幸雄(東北文化学園大学)、堀江湛(杏林大学)、三浦信行(国士館大学)、

安世舟（大東文化大学）、藪野祐三（九州大学）、
渡辺浩（東京大学）。

7. 事務局報告

学会事務センターへの移管に伴ない、若干の
補足説明があった。

1999年度第3回理事会記録

日 時：1999年10月3日（日）午後1時から1時
10分まで

場 所：國学院大学

第3回理事会では、以下のことが報告された。

1. 委員会報告

(1) 企画委員会

下斗米1999年度委員長より、昨日の分科会が
盛会裡に終わったこと、また午前中の主催校企
画に約200名、APSAとの国際交流セッションに
約120名の参加者があり、これまでにない盛会で
あった旨報告があった。永森理事より、ペーパー
の提出期限が守られていないこと、報告者等と
くに非会員から開催校に問い合わせが多く、今
後企画委員会とより密接な連絡網を作る必要が

あるとの報告がなされた。

(2) 年報委員会

馬場2000年度年報委員長より、年報委員を、
村上信一郎（神戸市外国語大学）、高橋直樹（東
京大学）、小野耕二（名古屋大学）、大串和雄（東
京大学）、宮本太郎（立命館大学）、斎藤純一（横
浜国立大学）、川崎修（立教大学）、荻田真司（國
学院大学）、遠藤乾（北海道大学）、中北浩爾（大
阪市立大学）の各会員に委嘱した旨報告があり、
承認された。

2. 次回理事会日程の件

次回理事会を、1999年12月11日（土）東京で
開催することが了承された。

1999年度臨時総会議事録

日 時：1999年10月3日午後1時30分～1時40分

場 所：國学院大学

1. 開会挨拶 永森理事

2. 次期理事長決定の件

五百旗頭理事長より、次期理事会において堀
江湛会員が次期理事長に選任されたことが報告
された。

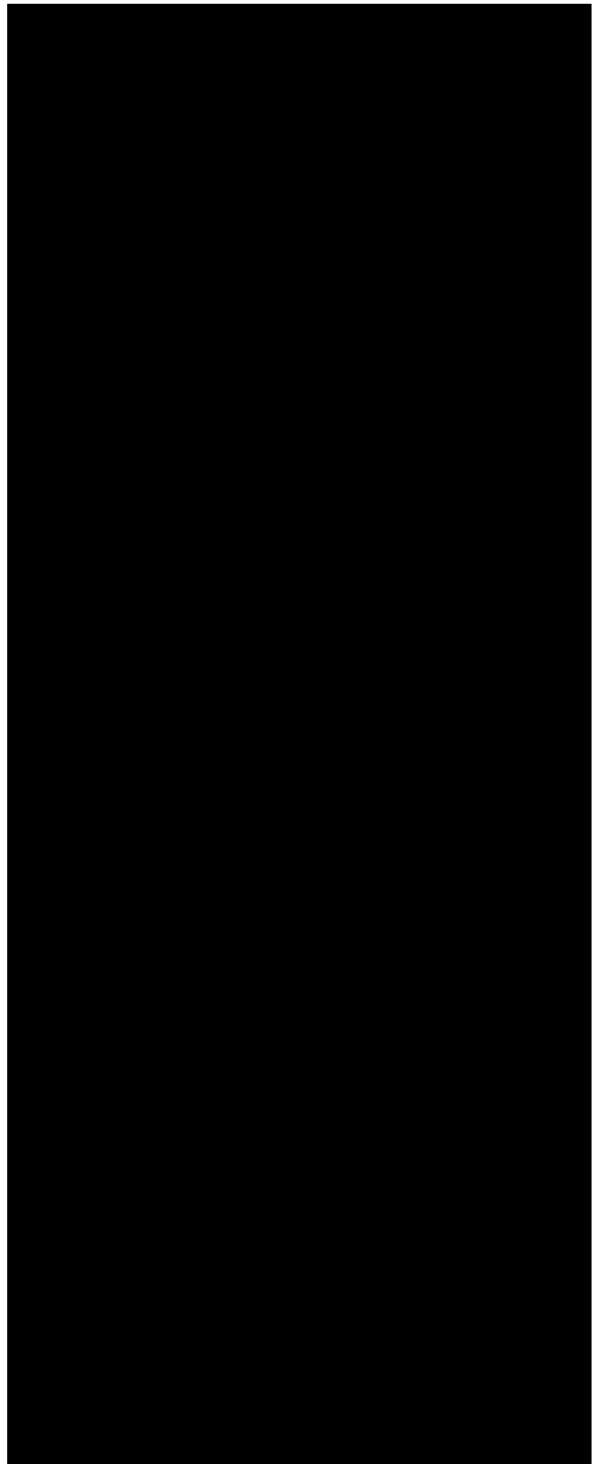
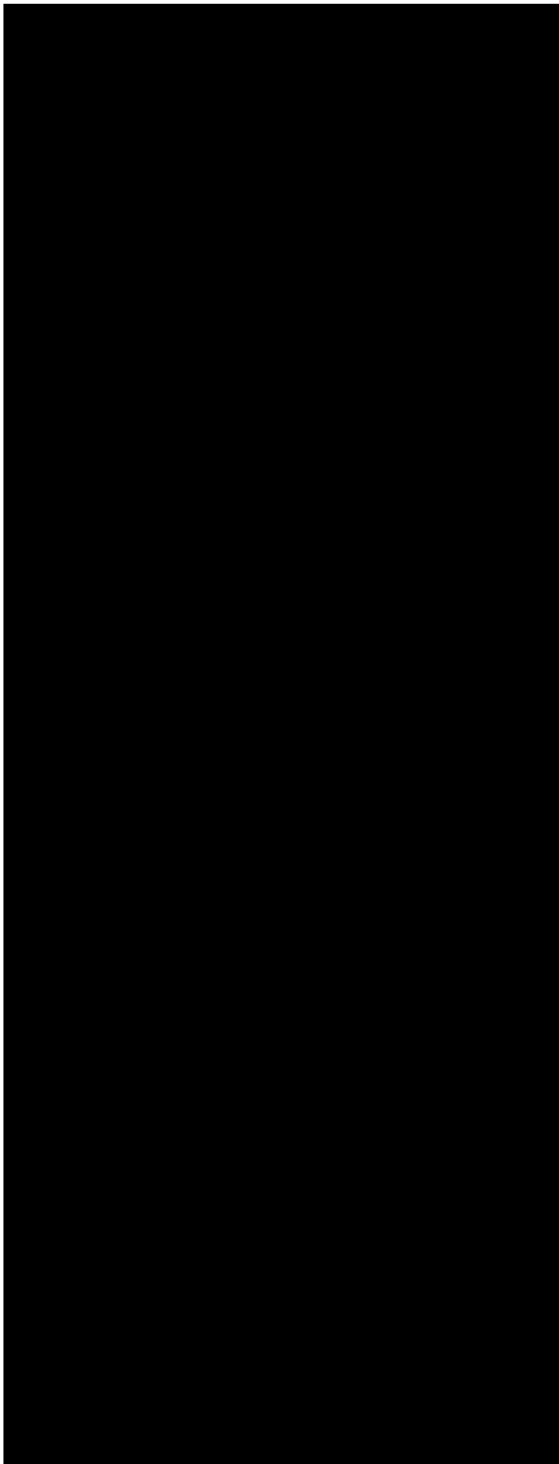
3. 閉会挨拶 永森理事

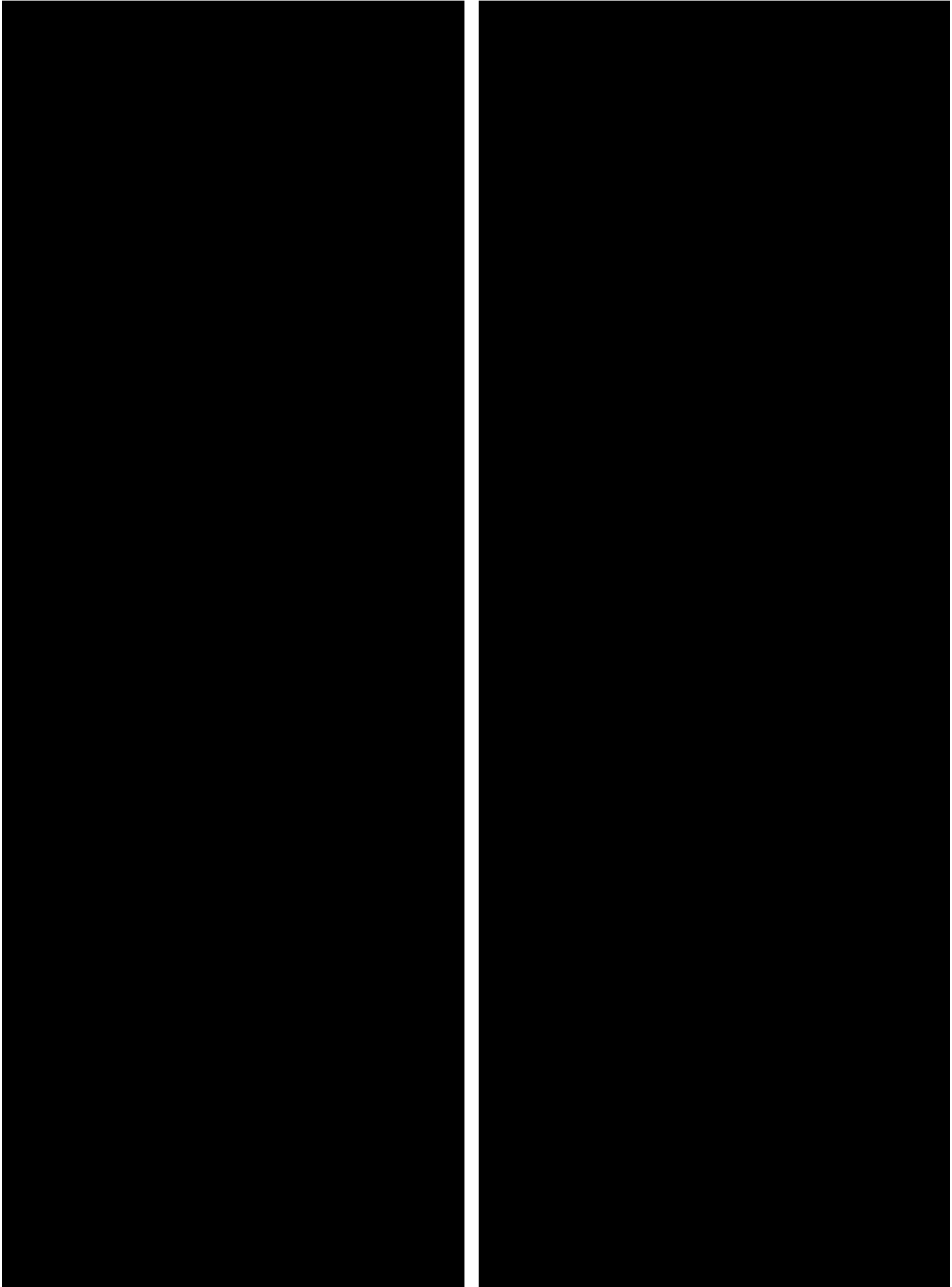
日本政治学会研究会開催校決定

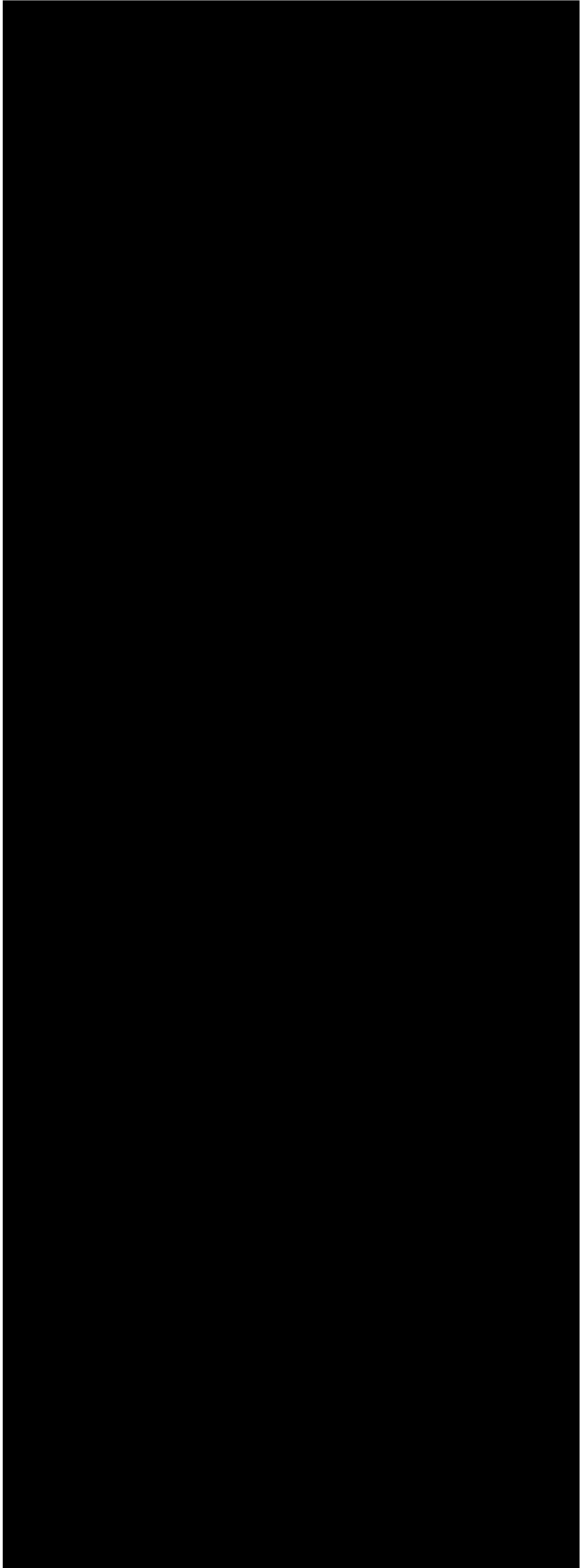
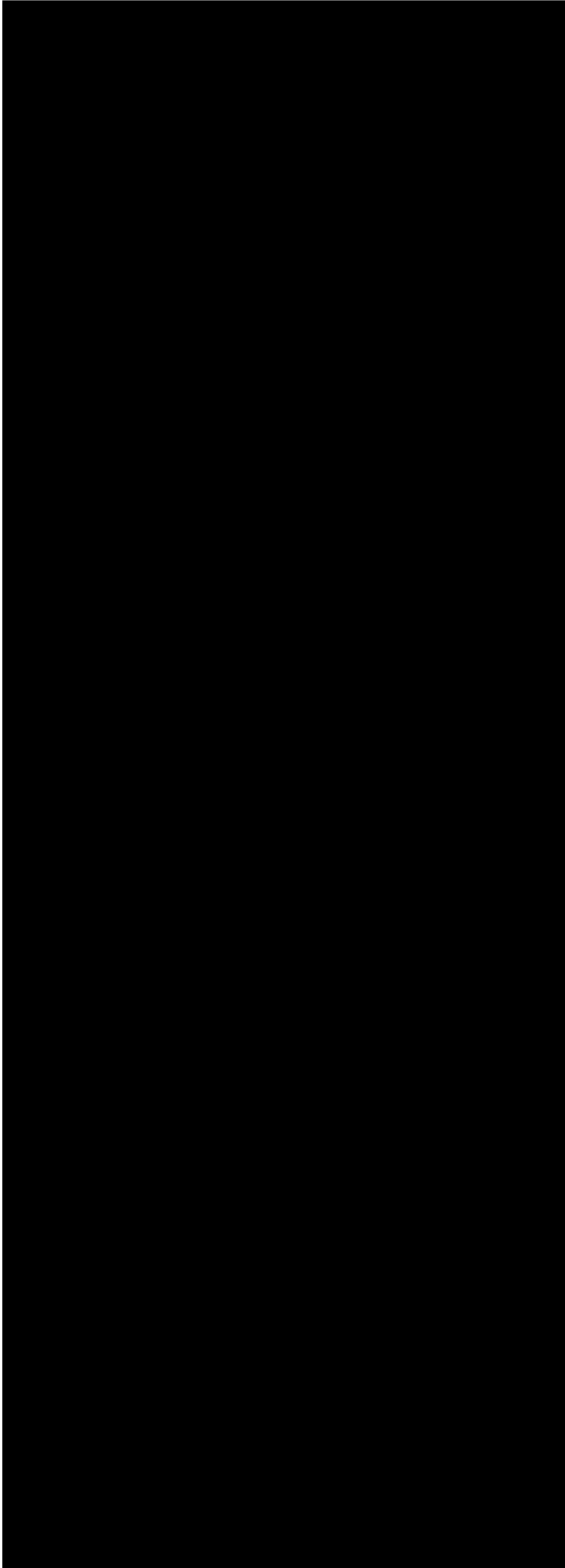
2001年度・2002年度の研究会開催校が決定
しました。来年度開催校とあわせてお知らせ
いたします。

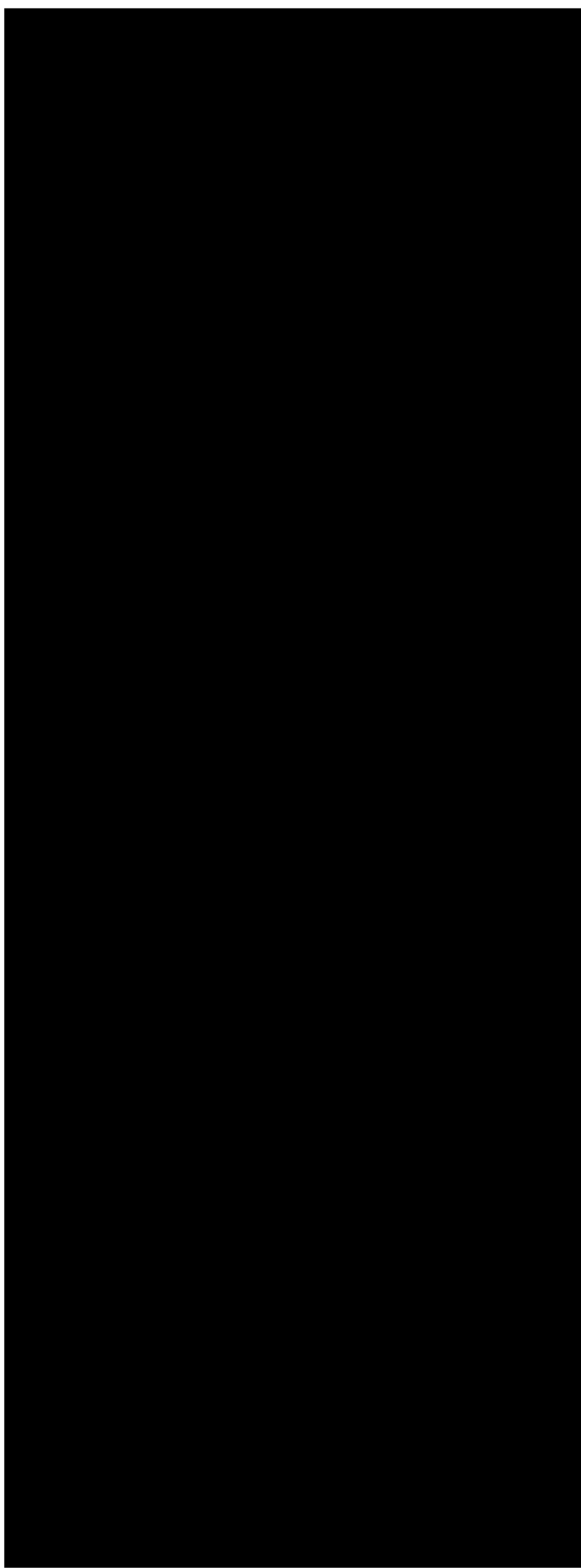
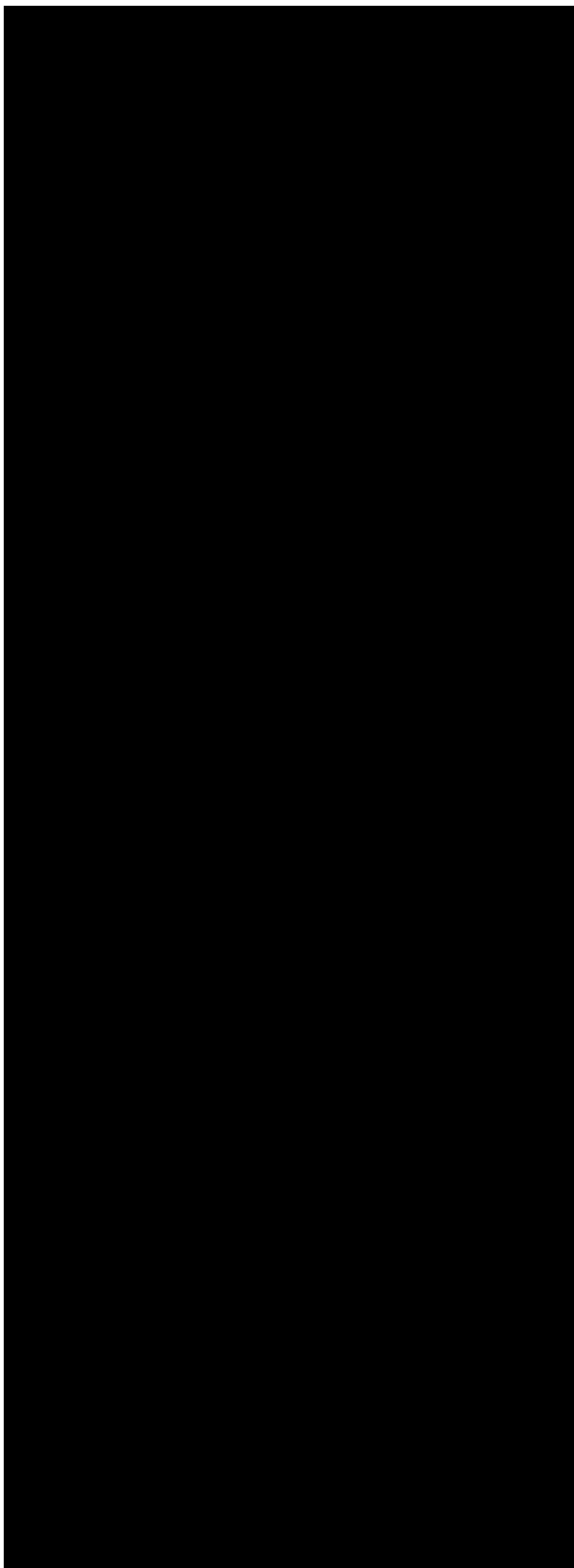
2000年度	名古屋大学
2001年度	立教大学
2002年度	愛媛大学

会員の異動









訃 報

・下記の会員が逝去されました。謹んで哀悼の意を表します。

高柳 先男氏 中央大学法学部 教授 国際政治学、平和学 現代フランス政治外交論 1937年生

西尾 孝明氏 明治大学 名誉教授 ヨーロッパ政治史 都市研究 1926年生

品川 徹氏 フランス政治学 1950年生

佐藤誠三郎氏 政策研究大学院大学 副学長 日本政治 国際政治 1932年生

事務局より

- ① 日本政治学会入会手続きのご案内
1999年4月より、学会事務の一部外部委託に伴い、入会手続きが変わっております。
1. 学会事務局へ入会申込書をご請求下さい。
 2. 入会申込書にご記入の上、学会事務局までご送付下さい。
 3. 理事会で審議します。
 4. 理事会で入会を承認された方には、「学会事務センター」から初年度会費の請求が参ります。
- ② 会費納入についてのお願い
年会費をまだ納めていただいていない会員の方が若干おいでになります。学会事務センターからもご案内させていただいておりますが、何卒速やかにご協力のほどお願いいたします。一般会員は7,500円、院生会員は5,000円です。ご不明な点は学会事務センターまでお問い合わせ下さい。

本号の目次

1. 倫理規定の検討を 阿部 齋 …………… 1
2. 2001年度『年報政治学』
論文公募について …… 2
3. 2001年度研究会企画に
関するお知らせ …… 2
4. 研究業績自己申告のお願い …………… 2
5. 理事会記録 …………… 3
6. 総会記録 …………… 6
7. 会員の異動 …………… 8
8. 事務局より …………… 12

1999年12月15日

発行 日本政治学会事務局

久米 郁 男

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町2-1

神戸大学法学部内

TEL 078-803-6770

FAX 078-803-6753

(財)日本学会事務センター

〒113-8622 東京都文京区本駒込5-16-9

会員業務(退会、住所変更、会費)

TEL 03-5814-5810

FAX 03-5814-5825

印刷 (株) ニック